

第4回 孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム幹事会 お打合せ記録

■日時:令和4年6月28日(火)11:00～12:00@Zoom

■参加者:

- 幹事団体は参加団体一覧を参照(しんぐるまざず・ふぉーらむ 赤石理事長はご欠席)
- 内閣官房 孤独・孤立対策担当室:参事官 石川賢司、参事官 田村真一、参事官 澤瀬正明、政策参与 大西連、参事官補佐 高橋範充、参事官補佐 吉川晃
- RCF:藤沢烈、前田絵麻、浦山泰之、渡辺朱音、田中亜季実、中村翠

(以下、敬称略)

■決定事項

- ・孤独・孤立対策に資するNPO法人等に関する調査について、日本NPOセンターと事務局にて協議を進め調査を実施する。本幹事会にていただいたご意見を参考に、協議を進める。
- ・分科会3について、公表時には統一的な相談体制の構築を目的とした調査研究ではなく、連携強化や試行錯誤のための調査研究であることを重点的にアピールする。
- ・地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォームの資料について、自治体や地方で活動するNPOが、コンサル主導で推進するという誤解を招かないよう、コンサルに関する記述を改訂する。

■意見交換要旨

2. 議題

(1)担当幹事からの報告

□孤独・孤立対策に資するNPO法人等に関する調査について(資料1-1)

- ・日本NPOセンター 吉田)資料1-1に基づいてご説明。
- ・ライフリンク 清水)孤独孤立に資する取組に関する調査と理解した。その調査も重要であり、あるべき姿であるが、一方で対象としている相談者がどのような人かも調査に含んでいただきたい。孤独に陥っている人がどのような人なのか、と特定することがその後の対策に役立つと考える。また、孤独孤立に陥りがちな人と活動の対象としている人がマッチしているのか、もしくは孤立孤独に陥りがちな人へ十分な支援ができていないのか、という、対象と実際に陥りがちな人のマッチングの検証が必要だと考える。
- ・あなたのいばしょ 大空)清水氏の発言に加えて、同時に、実態把握の調査内でR3年度はNPOに対しても調査を実施した。実態把握の本調査にも、支援団体にどのくらい

つながっているのかという項目を入れている。その辺りの同じ指標を入れ込むと比較出来るため、同じ指標をいくつか入れ込んでいただきたい。

→日本NPOセンター 吉田) 参考に検討する。

・全国社会福祉法人経営者協議会 宮内) 調査について、分科会2でも資源として民間社会福祉法人の活用をポイントとしてあげていただいている。調査対象に社会福祉法人も明記いただきたい。

→日本NPOセンター 吉田) 仕様書の表現を参照しているが、社会福祉法人も対象である。声掛けについては宮内氏に個別に相談させていただきたい。

□第1回シンポジウム(資料1-2)

・内閣官房 吉川) 資料1-2に基づいてご説明。

(2)分科会等

□分科会1 第1回全体会について(資料2-1)

・新公益連盟 井澤) 資料2-1に基づいてご説明。次回は第3層目へのアプローチについて意見交換予定。

□分科会2について(資料2-2)

・全国社会福祉協議会 高橋) 資料2-2に基づいてご説明。

□分科会3について(資料2-3)

・内閣官房 田村) 資料2-3に基づいてご説明。

・ライフリンク 清水) 試行的な取組について、統一的な相談体制の構築が目的ではない。構築を目的にすると失敗すると考えており、構築に向けた課題の共有が目的だと考えている。様々な課題を共有し、その課題を踏まえてどう克服するのか、克服できるのか、といった、構築に向けた材料を得ることを目的にして進めていけると良いというライフリンクとしての考えがある。多くの団体も同様に感じているのではないかと。

→内閣官房 田村) 1~3期に分けているのも、課題が出てくることを想定しているためである。公表時も、完全なシステムを構築する訳ではなく、連携強化や試行錯誤のための調査研究であることをアピールしたい。

3. その他

□地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォームについて(資料3-1)

・内閣官房 高橋) 資料3-1に基づいてご説明。事業の結果は分科会2を中心にフィードバックを行い、在り方について議論したい考え。

・社会的包摂サポートセンター 遠藤) 各地でPFを構築する、ということで進めると理解。その際に、実施体制としてコンサルが明記されていることに疑問がある。民間支援

団体はコンサルに疑問を抱きがちである。官民連携PFの会員がいるため、手を上げて
いる団体が各地域で自治体と作り込み部分から対応できるという発想でいることはある
か。

→内閣官房 高橋)自治体によって差がある、というところで申込しやすように記載
している。実際は、元々主体的にPFを作ろうとしている団体もある。そこについては、
当然地元のNPO等に声掛けして推進しようとしている。そのような場合のコンサルは後
ろから見た記録係りのような役割を担う想定。とはいえ全部の地域がそうではなく、他と
比較してどうか等を、自治体に慣れているコンサルと話しつつ進めていく。レベルに
よって合わせられるということで記載している。遠藤氏のご意見はご尤もであり、そのよ
うな団体が多いことを期待はしている。

→社会的包摂サポートセンター 遠藤)孤独孤立の取組を進めるための官民の対等
な連携構築を始める際に、コンサルの青写真に乗っかるとなると、民間が介入しにくく
なる懸念がある。

→内閣官房 高橋)そのような状況は無いようにする想定。コンサルと会話している
が、手探りで進める必要があるという話にもなっている。自治体と地元のNPOと話しな
がら推進することになる考えている。

→社会的包摂サポートセンター 遠藤)理解しているが、この書きぶりだと、誤解を招
きやすい。コンサルが主導にならない書きぶりにしていただきたい。紙が出ていくとき
に、自治体はこの紙で受け取ってしまうため心配である。

→内閣官房 高橋)心して資料作成する。

・子育てひろば全国連絡協議会 奥山)国全体の市町村へのバックアップは重要であ
り、モデル事業を広めるにあたり影響力がある。少子化対策の推進の自治体支援時
に、コンサル会社と実践者も必ずWSに参加し意見出しを行った事例がある。官民連
携PFの良さを活かした形で進めていけると良い。

・生活困窮者自立支援全国ネットワーク 奥田)PFについて、30自治体で国が後方支
援するという取組は良い。ただ、作った次のステップは何か。例えば自治体同士で更
なる連携できる、等。孤独孤立は顔が見える関係で進めることが原則だと考えるが、社
会全体の空気や在り方がひずんでいる。全国区で持っていく話と地方の話が上手く連
動すると良い。全国では、幹事団体＋参加団体で広めているが、新たに地方の枠組
みが出てきた理解。この先をどうするのが見えた方が良い。今日答えは無くて良いが、
最終的に、実践や知見をどうしていくのか、が弱いのではないかな。

→内閣官房 高橋)実際は練りに練って次年度予算をしっかりとる話だったが、早く取
り組めるチャンスが来た。ここで出た課題を今後の予算要求に活かしたりしたい考え。
必要性は取り組んでいく中で多く出てくると考えている。現状でも想像以上に役所側
の苦手意識が強い。そこをいかにほぐせるか、を初年度に解消できるようにしていきた
い。今後は、XXの地域だからできた、ではなく、自分たちの地域でもできる、というよ
うに事業を進めていきたいと考えている。

□GOTOトラベル連携事業イメージ(資料3-2)

・内閣官房 高橋)資料3-2に基づいてご説明。観光庁に状況を確認したところ、7月は県民割と全国展開の2本立てであり、GoToトラベルは9月以降に感染状況をみて判断するとのことであった。状況を確認しつつ、いつでもGoToトラベルを開始できるよう観光庁にて準備しているため、PFとしても粛々と準備を進める。GoToトラベルの開始時期になったら、バナー・HPのつなぎ作業や観光庁と連携して報道発表できる準備等を進める。寄附募集はPF活動内でアイデアを出して考えていくという事務局の認識があるため、別途議論を進めたい。

□その他

・ライフリンク 清水)制度を知らない層に対する啓発について、教育が非常に重要な役割を担う。事務局へのお願いになるが、文部科学省にも取組・対策について、どのようなことが考えられるか、選択肢1~3程度アイデアを文部科学省自身に捻出していきたい。

・子育てひろば全国連絡協議会 奥山)分科会1,2をオブザーバーにて参加した(Youtubeライブ配信での視聴)。なかなか分科会担当幹事にお世話になっているが、参加出来る部分は参加し意見したいと考えている。

・新公益連盟 白井)孤独孤立というテーマが重点施策に掲げられ、周知の機会を多く作っていただけると、政策提言の際に課題があることを前提に話せるようになった。また、社会課題の中心に孤独孤立があることをメディアでも伝えやすくなった。まずはここがスタートではあるが、引き続き取り組んでいきたい。

・内閣官房 大西)多くの取組が進んでおり、混乱している人もいるかもしれない。遠慮なく「これはどうなっているのか」等、事務局や個別に連絡いただいて構わない。政府としても初めての試みが多く手探りで進んでいるところが多い。意見をいただけるとありがたい。

・内閣官房 石川)本日付けで孤独孤立対策担当室の体制が変わった。

－ 大村前室長:総務省にてコロナ対策や地方創生に取り組む

→後任:山本麻里氏:元厚生労働省 社会・援護局長

－ 北波前次長:内閣府にてこども子育て本部(子ども家庭庁設立準備)に取り組む

→後任:榊原毅大氏:元厚生労働省 保険局総務課長

PFとして様々な活動を行っており、その他にも様々な孤独孤立対策の取組も行っている。今後も官民一体となり、更に対策を進めるべく努力していきたい。

以上